

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.19

日時	2013年7月13日
行脚先	法界寺 / 別所家霊廟
住所	兵庫県三木市 (播磨国)
行事名	竹中半兵衛法要祭

特徴

天正8年(1580年)、羽柴秀吉による三木城攻めにより、敗れた三木城主別所長治が自刃した後、その遺体を埋めたと伝えられる別所氏の菩提寺です。霊廟や別所長治夫妻の霊牌及び画像、木像があります。月命日にあたる4月17日には三木合戦記を絵物語にした大幅掛軸を使い絵解きが行われます。

黒田官兵衛との関わり

別所氏は早くから織田信長に従っており、家督を相続した長治も天正3年(1575年)10月に信長に謁見、翌年も年頭の挨拶に訪れています。信長が中国地方の毛利氏を制圧しようとする、それに呼応して先鋒の役を務めようとする。しかし、中国方面総司令官が成り上がりの羽柴秀吉であることに不満を感じ、妻の実家である丹波国の波多野秀治と呼応して信長に反逆しました。多くの周辺勢力が同調、従わなかった勢力も攻め、東播磨国一帯が反織田勢力となります。

これにより長治は、信長の命を受けた秀吉と黒田官兵衛の軍勢に攻められることとなります。長治は三木城に籠もって徹底抗戦して秀吉を手こずらせ、さらに荒木村重の謀反や毛利氏の援軍などの好条件も続いて、一度は織田軍を撃退します。しかし、秀吉の「三木の干し殺し」戦法に遭い、神吉城や志方城などの支城を落とされ、毛利氏からの援軍も途絶え、遂に籠城してから2年後の天正8年(1580年)、城兵達の命を助ける事と引き替えに妻子兄弟と共に自害しました。

辞世の句は「今はただ うらみもあらじ 諸人の いのちにかはる 我身とおもへば」。

記録

